

〔問1〕 暗誦をさせるさい、抑揚のつけ方は、どのように指導していったら良いのでしょうか。

〔答〕 抑揚は統一して、できるだけ良い抑揚のものを子供に聞かせてまねをさせるとよろしい。子供というものはそのままそっくりまねをするのが上手ですね。だから東北に生まれた人は東北弁が身につくし、関西に生まれた人には関西弁が身につくのです。とにかく子供というのはその通りに真似られるのです。これは子供の特徴で、大人にはできないことです。とかく子供は無力だと考えがちですが、子供と大人では能力がいろいろな面で極端に違うのです。ですから子供にとっては、A先生とB先生の抑揚が違うというのはとてもこまることで、アクセントについても同じことが言えますが、先生によって違うということでは本当の意味での言葉の指導にはなりません。だから先生というのは標準語をしっかりと身につけなければいけないと言われるのです。子供はその違いについてはとても敏感で、一定のリズム、アクセント、抑揚で話をされないと迷いが生じて言葉の習得が非常に困難になります。ですから、先生自身の勉強が必要です。私の園(東京・青桐幼稚園)ではビデオを利用して、私が標準と思われる読み方で暗誦するのを録画しておき、それを必要な時に放映しています。どこの園でも、ビデオやテープレコーダーを利用した一定の暗誦教材を作っておくと良いと思います。

〔問2〕 絵本にあまり関心を示さない子供がいるのですが、そのような

子供にはどのように指導していったら良いのでしょうか。

〔答〕 どうして関心を示さないのか、原因を探らなければなりません。他の子供に比べて文字に対する関心が弱かったり、まだ絵本を読む段階以前の子供もいたりします。つまり、文字や絵本に関する能力が低いわけですが、そのような子供には、他の子供のまだ知らないような漢字を、その子にだけそっと教えておいて、フラッシュカードを見せる時に、その子にその漢字を読ませますと、自信がついて漢字に対する関心が強くなることがあります。関心は、出来る子供ほど強く、能力の低い子供ほど物事に関心を示しません。出来ないから関心をもたない。関心をもたないから増々出来なくなる、という悪循環に陥ってしまっているのです。そういう子供には特別な手当を講じなければなりません。が、「自分にも読めるんだ」「他の子が読めない字でも読めるんだ」というような自信や喜びをもたせてやると、子供の心構えが変わって関心をもつようになってきます。絵本でも、教室で一斉に指導する前に、父兄や先生が個別にそっと教えておいた上で指導に入ると、他の子がまだ読めないでいるのにその子だけが読めるということになって、非常に自信がつき、絵本に強い関心を示すようになります。これはあくまでも手段としてお考え下さい。出来るということが一番の関心の強くなる理由ですから、出来る子はいつでも一所懸命やりますし、出来ることが楽しくて絵本を読むのが待ちどおしいほどですが、出来ない子にとっては、それをすることが、いやでいやでたまらないものなのです。